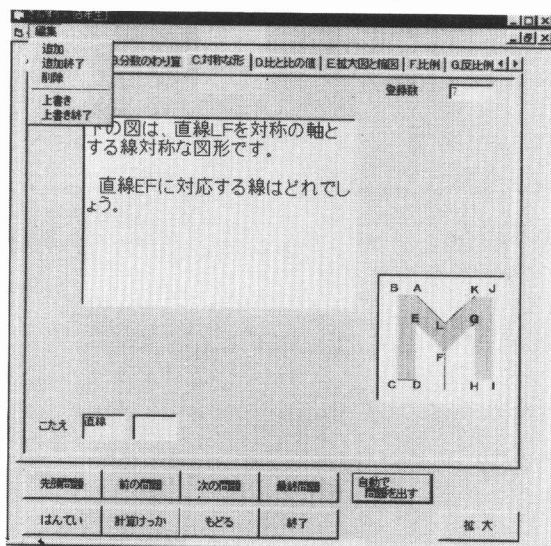


て提示できる画面を設定した。



エ ヘルプボタン

(ヒントボックスを画面に提示するボタン)

問題に関するヒントをヒントボックスに用意しておけば、ヒントがあるときだけヒントボックスが開くようにした。

③ 領域別問題提示画面

(領域別に問題を提示する画面)

領域別に問題を表示するので、学年間の関連をおさえて学習することができる。

また、どの学年の問題でつまづきが多いのかも把握することができる。

④ 誤答問題提示画面

(学年別や単元別で誤答した問題だけを表示させる画面)

この画面のなかで正解すれば、正解した問題は、つきからは表示されなくなるようにした。

⑤ 計算結果表示画面

(データを並べ替えるボタン)

日付順・出席番号順・正誤別・単元別・学年別並べ替えのボタンを設け、データの並べ替えが簡単に表示できるようにした。

⑥ データの変更・追加画面

パスワードを設けて、この問題一覧画面からも編集できるようにした。

IV 研究実践のまとめ

- (1) 本年度の研究では、Visual BasicとAccessのデータファイルを関連させ、教科ソフトウェアの開発に取り組んできた。そのことにより問題をデータベース化することができた。
- (2) CSV (Comma Separated Value)形式としてデータを保存しているので、表計算・データベースアプリケーションソフトと関連を図ることができるようになった。
- (3) 全学年のどの単元からも解答でき、手軽に使用できるソフトウェアに仕上がった。
- (4) 今後は、これを実際に使用していきながら、有効な利用法を探っていきたい。